

無痛分娩説明書(初産婦)

I. 無痛分娩とは

無痛分娩とは麻酔を使って陣痛の痛みを緩和し分娩する方法です。代表的な麻酔は硬膜外麻酔です。

II. 無痛分娩のメリットとデメリット

1. メリット

- ・ 分娩時の痛みが軽減される
- ・ 痛みのストレスから解放される
- ・ リラックスして分娩に臨むことができる
- ・ 分娩時のストレスを軽減することで体力が温存でき産後の回復も早くなる
- ・ 緊急帝王切開となった時、速やかに手術に移行できる

2. デメリット

- ・ 分娩第2期が遷延する
- ・ 吸引・鉗子分娩となる率がやや高くなる

III. 当院の無痛分娩

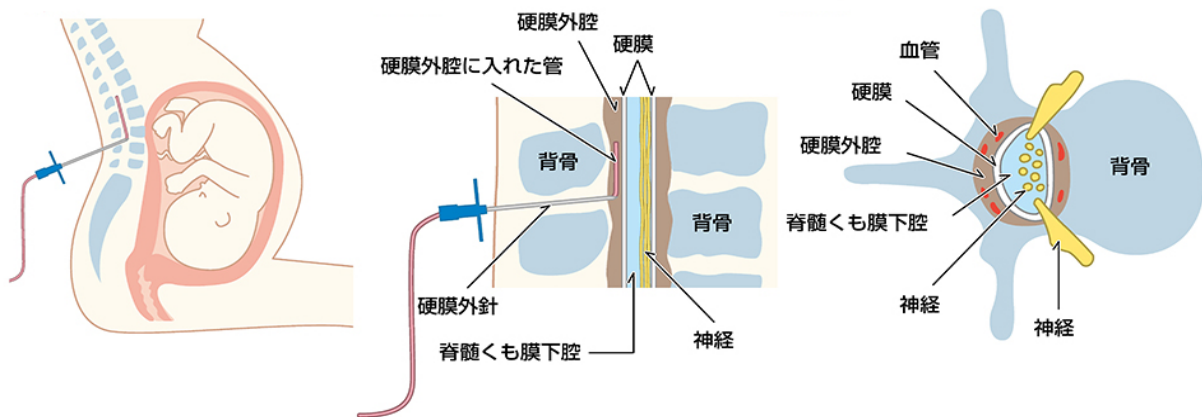
当院では、麻酔の専門知識をもった麻酔科医師が麻酔管理を行い、産婦人科チームで対応しております。

麻酔は【硬膜外麻酔】という方法で行います。

陣痛が始まり痛み出したら、麻酔科医師が硬膜外カテーテルを挿入します。硬膜外カテーテルの挿入は分娩室にて行います。

1. 硬膜外麻酔

脊椎の中の硬膜外腔というスペースに硬膜外カテーテルという細い管を挿入し、そこから麻酔薬を注入する方法です。麻酔の効果を确认后、PCAポンプという装置を用いて、麻酔薬を調整しながらお産を進めます。



比較的多い副作用・合併症	まれな副作用・合併症
血圧低下 発熱 尿が出にくくなる 脱力感 下肢のしびれ 皮膚のかゆみ 胎児一過性徐脈	頭痛 アナフィラキシーショック カテーテル挿入による硬膜外血種・感染・神経損傷 局所麻酔薬の血管内誤注入による痙攣 局所麻酔薬のくも膜下誤注入による広範囲な麻酔の侵襲

2. 注意点

- ・ 麻酔を実施出来るのは月曜日～木曜日の日中となります。金・土・日・祝日・夜間対応は原則出来ません。麻酔科医師不在時や、安全に無痛管理が実施出来ないと判断した場合は、月～木曜日の日中であってもお断りする場合があります。
- ・ 無痛分娩中に母子の安全を優先するため緊急帝王切開を行う場合があります。

3. 硬膜外麻酔実施中の過ごし方

- ・ 硬膜外麻酔中は禁食ですが、飲水は可能です。
- ・ 痛みの感じ方や子宮口の開き方をみながら、麻酔使用・増量のタイミングを決めていきます。
- ・ 定期的に血圧測定・麻酔範囲のチェック・内診を行います。
- ・ 分娩までベッド上で過ごしていただくため、2～3時間ごとに導尿を行います。

IV 料金

無痛料:10万円

- ・ 処置料6万円(硬膜外カテーテル挿入手技料・医療材料費)
- ・ 管理料4万円(麻酔管理料・薬剤費・医療材料費)

ご注意

- ① 何らかの理由で分娩に至らなかった場合や緊急帝王切開となった場合でも硬膜外カテーテル挿入を挿入した際は処置料6万円、無痛管理を行った場合は4万円(計10万円)をお支払いいただきます。
- ② 経過・症状により上記以外に費用がかかる場合があります。

経過・症状により上記以外に費用が掛かる場合があります。